



「第20回東京ふるさと斜里会に寄せて」

斜里町長 馬場 隆



東京ふるさと斜里会の皆さま、如何お過ごしでしょうか。

関東地方の今年の夏は酷暑だったようですが、今年の斜里町は、1月から3月にかけて度重なる暴風雪や、4月初旬の暴風雨、5月の降雪など気象の不安定化の感を年々深めつつあるところですが、

さて、会員の皆さまに斜里町の近況をお伝えいたします。

今年4月に斜里町の憲法というべき「自治基本条例」が施行されました。今後は、まちづくりに向けより一層、町民・議会・行政が一体となっていく必要があります。今年、この条例の精神を反映させた平成26年度からの新総合計画づくりがスタートし現在、町民の皆さんと行政と一緒に進めているところであります。

昨年の産業については、農業が天候不順や販売価格の低迷などの影響を受け生産額ベースで前年比約6%の減少、漁業は全道的には20年ぶりの不漁に見舞われ、漁獲金額は大幅減額となったものの、サケ漁獲量では10年連続日本一となりました。また、観光は外国人観光客の増加などにより震災前の水準まで回復しております。

今年は斜里町にとって節目の年にあたる事業が多く、日本列島の両端に位置する国立公園という縁から沖縄県竹富町とは姉妹町盟約40周年、北方警備派遣で殉難死した津軽藩士の慰霊碑建立を契機とした青森県弘前市とは友好都市盟約30周年の年であります。今年、盟約記念事業として、竹富町・弘前市から多くの方々が斜里町に来町され、また斜里町から町民の方々が竹富町・弘前市を訪問するなど、多くの交流事業を行い友好の絆を深めております。また来年ではございますが、知床は、国立公園指定50周年を迎えます。

そして、皆様の東京ふるさと斜里会は、今年、20回目の節目の年であります。20年と言えば人間でいうところの成人にあたりますが、この間、会の運営などで多くのご苦労があったことは多分に推察でき、会を支えて頂いた役員の皆様をはじめ会員の皆様にご心より感謝申し上げます。

終わりに、今後もふるさとを思う斜里会会員の皆さまのあたたかいご支援とご協力をお願い申し上げるとともに、東京ふるさと斜里会のますますのご発展と会員の皆様のご多幸をご祈念申し上げ、ご挨拶といたします。



平成 25 年度「東京ふるさと斜里会」 事務局活動報告

副会長 兼 事務局長 吉野 躬行

会員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

年に一度、東京近郊在住の会員の皆様とふるさと斜里に縁のある方々との交流の場として開催して参りました「東京ふるさと斜里会」も今年で20周年の節目を迎えることが出来ました。

これも一重に会員皆様方の温かいご理解とふるさと斜里町の絶大なるご支援の賜と厚く感謝している次第です。

また、今年は斜里町が竹富町及び弘前市との盟約を結んで、共に記念すべき年にあたります。

相互に、積極的な町民交流、児童交流、物産展、知床博物館特別展示などが行われていて、物産交流としては、来運の水を使用した特性「泡盛」が、40周年記念・アルコール度数40度で、9月下旬の販売に向けて準備が進められているとのことでしたので、この懇親会に再デビューを期待しているところです。

さて、会運営上の色々な事情が重なり、この4月に三度目の事務局長をお引受けすることとなりました。

事務局としての活動目標は、①斜里町との相互信頼関係の回復、②会員主体の懇親会の再構築、③会員への予告案内はがきの郵送、④会員名簿の精査、⑤年間活動スケジュール化(表-1)、⑥次世代への継承です。この目標を実現するためには、どうしても斜里町役場の全面的な支援要請が必要と判断し、4月上旬には馬場町長に直接電話で状況説明をして支援をお願いしました。

そのおかげで、5月下旬には、開催日時の“予告案内はがき”の郵送、広報しゃり7月号にて町民の皆様にも”各地ふるさと斜里会”開催日の紹介がコラム掲載、8月中旬には副会長レベルによる斜里町表敬訪問が実現できました。

また、8月下旬には計画通り、会員(460名)宛て案内状(斜里町役場より)及び来賓宛て招待状を事務局より発送しました。20周年の集いへの事務局活動は4月より実に順調に進めることが出来たのも馬場町長のご理解と企画総務課企画係塩幸也主事の並々ならぬ努力のおかげと感謝している次第です。実施の役員会は次の通りです。

□第1回役員会は、7月13日(土)に開催しました。平成24年度の役員分掌の見直しがどうしても必要となり、役員会での賛同を得て平成25年度単年度の役員を再編成しました。

□第2回役員会は、9月14日(土)に開催します。全役員による会員への“電話呼び掛け”の効果で、参加者総数120名の目標が達成できるかが、楽しみです。また、今回はいろいろ決定することがあります。特に“20周年のど自慢大会”の企画、演出を通して、次世代へのバトンタッチを目指すことも役員全員の重要なタスクでもあります。

□第3回役員会は、10月19日(土)を予定していますが、開催日一週間前の最終確認作業が中心です。第20回総会・懇親会がすべて順調に推移することを役員一同願って止みません。以上

【更新版】 平成25年度 第20回東京ふるさと斜里会総会・懇親会実施【年間スケジュール表】(案) 更新 H25.8.21

実施年度	日程	2013/April	April		May	June	July	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
		第4回役員会	会計引継	事務局活動(交渉開始・交渉中)		斜里町表敬(未定)	第1回役員会	第2回役員会	第3回役員会	第20回総会・懇親会		
第20回 (H25年度)	主なる活動事項及び役員会日程(案)	4/13(土)	4/13(土)	4/16(火)	5/中-下旬	中旬~下旬	7/19(土)	中旬	9/14(土)	10/19(土)	10/26(土)	懇親会
		光が丘区民ホール5F1-会議室No.1	宮武会長 続行	馬場町長とのTel発信、要請	会員宛予告ハガキ本斜里町+役員一同(斜里町一役員)	第18回表敬先	光が丘区民ホール	案内状発送 宮武会長名(斜里町一役員)	光が丘区民ホール(6階2番)	光が丘区民ホール(6階2番)	中野サブプラザ1階(アネホール) 15:00~18:00 <11:00集合> 役員+実行役員	未定
		13:00~14:00	事務局長 吉野兼任	宮武理事 決算証書未送	来賓要請中	15回表敬先	14:00~17:00	14:00~17:00	14:00~17:00	13:00~17:00	二次会(18:00~20:00) 6階 プラザ	未定
		役員会(14:00~17:00)	会計 村本に交際	新役員追加(案)	5/来賓希望(七条さんに依頼中)	新役員交渉期限	15回表敬先					
懇親会(17:00~19:00)	総務 柳下に交際	2高田 敬										
実施事項(案)	東京 斜里 弘前											
0	4th役員会(二次監査+会長、役員選出、他)	○	○	○								
1	馬場町長(会員宛てハガキ送付の支援依頼)	○	○	○								
2	1st役員会(事前案内はがき、会員名簿配布)	○										
3	2nd役員会(中間報告-参加者把握、イベント具体化)、実行予算の具体化)	○										
4	3rd役員会(料理、飲物など最終発注)	○										
5	会員名簿口コミ結果の集約(出席者の把握)	○	○									
6	抽選品、プレゼント品目、即売品目の決定	○	○									
7	案内状案作成(来賓招待、会員)	○										
8	来賓招待者案内名簿の最終決定	○	○									
9	来賓招待者宛て案内状発送<締切り 10/10>	○										
10	役員宛案内状発送(8月23日<締切り9月30日>)	○										
11	出席者名簿の作成(斜里町役場/10月上旬)	○										
12	プログラム、しおり、出席者名簿の校正(東京一印刷(斜里町/10月19日役員会にて報告))	○										
13	物品発送準備(斜里一中野サブプラザ) 10月中旬以降	○	○									
14	名札の準備作成(斜里町/10月中旬)	○										
15	総会・パーティー当日対応											
①	抽選会/即売品の仕分け作業	○										
②	プレゼント品の袋詰め作業	○										
③	会場設営(東京、斜里町総務部企画課)	○	○	○								
④	受付体制(東京)	○										
⑤	司会進行(東京)	○										
⑥	抽選会(東京、来賓)	○										
⑦	来賓担当(東京、斜里)	○	○									
⑧	即売品担当(斜里スタッフ+東京)	○	○									

東京ふるさと斜里会事務局
事務局長 吉野 躬行

平成 25 年度東京ふるさと斜里会 第 1 回役員会活動報告

開催日：平成 25 年 7 月 13 日（土） 午後 2 時～午後 4 時 55 分

会場：光が丘区民センター 6 階 2 番会議室

出席者 <議長>吉野、浦田、村木、日吉、船津、吉本、柳下、佐藤(禎)、
<書記>三宅、：9 名

欠席者 宮武、宮内、土橋、大木、野村、佐藤(公)：6 名

<議事>

議案 1. 平成 24 年度会計監査報告(監事 吉本、村木)

- 前回(4/13)役員会で会計検査が終了したとの報告を受け、今回、吉本監事より平成 24 年度の最終監査報告(資料 1)があり、承認された。
- ・会計が作成すべき収支計算書が吉本監事により作成されたことについての経緯説明があり、平成 25 年度は適切に処理がなされるよう、新体制で対応することを確認した。

議案 2. 平成 25 年度新役員の紹介(吉野事務局長)

- 宮武会長より、体調不良を理由に辞任の申し入れ(7 月 11 日付グループメール)があったが、会則第 7 条第 3 項に則り、会長代行を置くこととした。
 - ・役員協議の結果、吉野副会長を会長代行とすることを全員一致で決定した。
 - ・会長代行の任期は、宮武会長の快復までの期間とする。
 - ・会長代行の副会長順位は、会長と 4 副会長で決定しておく。
- 前回(4/13)の役員会において、平成 25、26 年度の役員は平成 23、24 年度の役員で当たることが承認されたが、新体制として、単年度(H25 年度)役員の分掌変更及び新役員の追加の動議が事務局より出され、協議の結果、原案通り承認された。(資料 2)
 - ・分掌の変更として、土橋幸博氏を事務局次長に、村木恵美子氏を会計に、船津正吉氏を理事(コンプライアンス担当)に、柳下妙子氏を監事に任命。
 - ・新役員には、就任依頼交渉をしてきた高田敏氏を新理事として任命した。

議案 3. 20 周年記念行事に向けた活動経過報告と検討(吉野事務局長)

- 斜里町役場の全面協力を得て、4/16 より企画した「事前案内はがき」を 5/24 斜里町から一斉郵送(288 通)。結果 28 名の会員消息の精査が可能となった。
 - 東京ふるさと斜里会会員名簿が完成(H25.6.30 時点)した。(資料 3)
 - ・8 月下旬、462 通の案内状発送用として使用する。なお、個人情報防止策として、会員名簿の電子ファイルは一元管理とし、斜里町役場に依頼した。
 - 「広報しゃり 7 月号」(資料 4)の交流欄(P13)に東京ふるさと斜里会の開催案内を掲載した。
 - 集客のための方策について意見を出し合った。
 - ・同窓会、同期会等でパッケージ旅行(東京スカイツリー、富士山等)を組み、日程を合わせる。
 - ・東京ふるさと斜里会会員名簿(資料 3)を基に、役員 1 人最低 10 件に電話等で出席をお願いする。
- 次回の役員会 9/14 (土)で結果を報告して貰う(吉野事務局長)。

議案 4. 年間スケジュールの確認及び斜里町役場の事務日程報告について(吉野事務局長)

- 平成 25 年度年間スケジュール表(資料 5)に沿って確認した。
 - ・第 2 回役員会は 9 月 14 日(土)14:00～、第 3 回役員会は 10 月 12 日(土)13:00～とする。
 - ・役員会は開催場所を光が丘区民ホールに固定し、浦田副会長に予約をお願いする。
 - ・第 20 回東京ふるさと斜里会総会・懇親会案内状は 462 通、8 月 20 日～21 日を目標に、斜里町より発送してもらう。(斜里町役場への出欠回答返送締切日：9 月 30 日を予定)。

議案 5. 平成 25 年度予算(素案)の検討(吉野事務局長)

- 東京ふるさと斜里会 20 周年記念収支予算書案(資料 6)に沿って説明があった。
検討の結果、一部修正案が出され、(2)支出の部、交際費 42,000 の中に斜里町来賓土産代 30,000 円を追加して 72,000 円に、イベント企画費 70,000 円を 40,000 円に修正した。
- 修正案(収支額：1,276,000 円)を暫定的に全員一致で承認した。
- 収入を増加させるために、総会・懇親会参加者を増やすよう全役員で努力する。

議案 6. 20 周年記念に向けての記念行事等の検討

- フリー討論とし、次回検討事項とした。
 - ・「20 周年記念のど自慢大会」はどうか。

以上



2013.08.23

我がふるさと「斜里町と知床半島」

顧問 佐藤禎伸

我がふるさと「斜里町」は2005年「知床半島」が世界自然遺産に登録されてから俄然知名度が上がり、国内はもとより世界中に知られるようになりました。特に仕事から東南アジアを訪問する機会が多く外国人から“一度でいいから行ってみたい！”との声が聞かれるようになってきました。しかし、私が斜里町を離れて（1957年）大学に入ったころには「斜里？知床半島？知らないね！一体どこにあるんだい？」などと揶揄されたものでした。確かに当時斜里から東京に行くには列車と青函連絡船を乗り継いで30～36時間かかりましたが今では航空機で行けば2時間以内（当時は女満別空港から行けばすぐでしたが便が少なく費用が高くて・・・）、世界的に有名になり“一度ならず2度3度と訪れたい！”と言われるようになってきて誇りに思います。

一昨年私が住んでいる埼玉県北本市の仲間達8名（名は“がらくた探検隊”）と根室から羅臼を通り知床半島・斜里を訪問しました。仲間には知床半島と斜里を数度訪れて充分知り尽くし、みんなにその良さをPRしてくれている人もいます。

先ず根室では納沙布岬に行くと北方4島が目の前で“北方領土を返せ！”と叫びたくなるのは我々だけではないでしょう。宿泊は花咲港の民宿で“花咲かに”をたっぷりいただき、食べている時だけは誰も口を利かない。翌日風連湖・野付半島を通り羅臼に行くが、知床半島の場合はやはり羅臼側を知らないと「知床を知っている」とは言いにくいでしょう。農産物・海産物ともに豊かな斜里町を如何に活性化するかは大いに議論する必要があるだろう。

羅臼側では日本最北東突端地“相泊”の海岸にある露天風呂（とても熱くて入るのに一苦労）、“熊が入った民宿”、知床旅情を歌った“森繁久弥の銅像”それに露天風呂“熊の湯”（この湯も熱い！）など羅臼側の良いところも多い。知床峠に着くと目の前を見る「国後島がなぜロシア領なのか！」と憤りを感じながら“カムイワッカの湯の滝”に向かったが監視員から「滑落事故が多いので一の滝しかダメ」と言われ、登って露天風呂に入るのをあきらめた。

斜里町に入り先ず「知床斜里駅」を訪問、夕食は私の友人1年前まで食事処“ひろた”を開いていた広田幸男君の自宅庭で友人の市村、桑島両君も加わり新鮮な魚のバーベキューなどを御馳走になり大満足。その席では“斜里町を活性化するには何をなすべきか！”など勝手に議論し合って、グリーン温泉に泊まるが素晴らしい温泉！斜里に別れを告げて網走・足寄・然別湖と旅をしながらその良さを満喫してきました（割愛）。

最後に“ゆめホール知床”のこけら落としとして披露された「さよなら知床」を作曲・指揮した友人“故坂井馨一君”の墓参り。（一昨年東京ふるさと斜里会の日他界）彼は斜里町の文化活動を牽引した貴重な人財でした。彼の分も知床斜里をもっとPRしなければと思っています。また、東京では斜里出身の鶴田絹子（旧姓藤岡絹子）さんが中野で開いているスナック“絹絹”があり、我々はその根城に時々楽しんでいるが、すぐ斜里町の話になってしまう。

北海道はやはり知床半島のような自然豊かな道東地区を回してみないと本当の良さが解らないのではないのでしょうか。



華やかな花火 そして 真黒に 無から成る炭

理事 日吉 美江

ふる里しゃり会も 二十回目を迎えて 顔・顔・顔の 触れ合いの会と成りました。
華やかな 顔の集まりでしょうか。ふる里会においての 成人の年と 成ったわけです。
第一回の集いの時は、何百人も集まり 近年では楽しみに待っていて下さり 足を向けて下さいます皆々様 定着したのでしょうか。楽しみながら準備に当たる者 楽しみながら年に一度の この集いの一通の連絡を待っていて下さいました皆様方。
彼が、先輩が、後輩から連絡があった・・・顔でも見に行ってみようかな。
この 一年・一年・が 二十回目の年を迎える年と成った訳です。この会の皆様方の成人の会です。
何もしなければ何も変らなかった。報告・連絡・相談・集いが有り 行動して 二十回の年を迎えられたと思います。人は一人では生きて行かれないと言われていています。支えられて人は生かされていると 家族の方々に、友人に、地域の方々に、その中に、ふる里しゃり会に出席してみる お手伝いしてみたいなあ・・・、楽しそうだなあ・・・、会年齢も高く成って参りました。
ですが まだ まだ 元気で集えます。支えの中に 入れてみてはいかがでしょう。
美しいふる里の有る 会の皆様 ふる里有るかぎり会も元気です。一瞬 の美しい花火もよし。
私しは ふる里の この会が 炭の様に 過去・現在・未来を感じて 残せる会である事を願っております。豊かで 美しい自然 そして恵まれた土地に 感謝しながら。ビルの谷間で 生きられる今 遠くに斜里岳を思い 一人の斜里人として ありがたく そして 心 豊かです。



理事 佐藤 公保

近年、若者達の間ではTwitter やFacebook などソーシャルネットワークが広がり、同じ地元の人たちがネット上で繋がっている事が多くなっています。もちろん、斜里町や斜里中学校、斜里高校のコミュニティサイトも既に作られており、多くの斜里町出身者がネット上では繋がっております。

しかし、結局は文字だけの繋がりは薄いもの、実際に顔を合わせて会話する事が人間一番大切であると仕事でメールを多用している度に思っております。

東京斜里会は年 1 回ではありますが、実際に皆様方と顔を合わせて交流し短い時間ではありますが実に濃い繋がりが出来ていると思っております。

私個人の経験でも、参加させて頂く度に両親や叔父、叔母の知り合いや同級生の方々とお話させて頂き、今までとは違った一面を発見する事が楽しみになっております。是非とも若い世代の方々にも、東京斜里会にご参加頂き文字だけの薄い繋がりではなく、人と人が出会うことで生まれる濃い繋がりを楽しんで頂ければ、活気付く何かのきっかけになっていくのではと思っております。

私自身もまだ 30 代と役員の中では非常に若手ではありますが、この東京斜里会というすばらしい出会いを今後も大切に守っていきたいと思っております。



釧網本線（せんもうほんせん）の旅

理事（旅人） 高田 敏

釧網本線は、昭和6年に網走―東釧路間の全線が開通しました。地元の方々の貴重な交通手段として、学生の通学・買物や病院へ通院するお年寄りの方々がよく利用しています。また、観光列車として「流氷ノロッコ号」「SL 湿原号」「くしろ湿原ノロッコ号」「SL オホーツク」などが運行され道東地区の観光に大きく貢献しています。夏や流氷などの観光シーズンにはいつも空いている座席が満席になるほど賑わいます。

それでは、網走発・釧路行の「快速しれとこ」で知床斜里駅まで誌上乘車してみましょう。

網走駅を出発すると、線路が高架となり網走の町が見下ろせます。右にカーブしながら桂台駅を過ぎ、トンネルをぬけると左側にオホーツク海が見えてきました。通称斜里国道（国道244号）に沿って進みます。流氷シーズンは特に絶景であり、鱒浦港の流氷に覆われた海、その先に浮かび上がるように幻想的な斜里岳の姿が見えます。藻琴駅手前では斜里国道を跨ぎ、左側に見えていた国道が右側に変わります。藻琴駅を出発し北浜駅に到着。北浜駅はオホーツク海に一番近い駅として有名です。この辺りでは、秋に鮭釣の竿が浜一面に見られ、冬には手の届きそうな場所に流氷の姿です。北浜駅を過ぎると右側に濤沸湖が表れました。湖前には春から秋にかけて馬も放牧されており、屋根が草に覆われている馬の厩舎が見られます。濤沸湖の右に見えるのが藻琴山、その左には斜里岳。車窓左のオホーツク海側にはエゾキツゲ、ハマナス、エ

ズスカシユリなどが咲き乱れる（7月頃）小清水原生花園です。浜小清水駅を過ぎると斜里国道とはさようなら。林の中を列車は進みます。冬にはオジロワシ、オオワシの姿が見られますので、注意深く眺めましょう。止別駅を過ぎしばらく進むと左側にまたオホーツク海が見えてきました。快晴で空気が澄んでいる季節には、知床連山からその先の知床半島全体が見渡せることでしょう。線路は、右にカーブして海から離れはじめ、オホーツク海ともお別れです。そして斜里川の鉄橋を渡ります。斜里川では秋に鮭の遡上の姿が見られます。世界遺産である知床への玄関駅である知床斜里駅に到着。駅前からは知床（ウトロ）方面へのバスが運行しており、多くの観光客の方々が乗り降りします。

ちょっと乗り越して隣の中斜里駅まで乗車することにいたしましょう。

知床斜里駅を出発すると線路は大きく右にカーブして南に舵を取ります。早春の畑では北に帰る白鳥達が羽根を休めている姿が見られます。左側に見えるなだらかな山は海別岳。左正面に大きく斜里岳が見えてきました。中斜里駅で下車。近くに見える大きなサイロがホクレンの製糖工場。中斜里駅で下車し、駅から正面の駅前通を徒歩で歩きましょう。突き当たりには中斜里公民館。このあたりは、斜里岳が一番美しく見ると言われている絶景ポイントです。

今回の旅はここで終了・・・、でも少しだけこの先の釧網本線の見所をご紹介します。清里駅まで左側に見える斜里岳は

見る角度によって序所に山の姿を変えていきます。緑駅手前は要注意ポイント、線路によくエゾジカの姿が見られ、列車が減速停止となる場合があります。緑駅からは勾配のきつい峠越えとなり、秋には紅葉が綺麗。川湯温泉駅が近くなると右に噴煙をあげる硫黄山、茅沼駅から見られる「たんちょう」の姿、その先には右側にシラルトロ湖、左側には釧路湿原を楽しみながら左に見える塘路湖へと進みます。晴れた日には遠くには阿寒連峰も見えることでしょう。最後に川の水が凍って蓮の形をした氷を見



Abashirieki

ながら（冬）釧路川の鉄橋を渡り、釧路駅に到着します。

約3時間の網走から釧路までの釧網本線の旅は、「海・山・湖・野生の動物」を楽しめ、季節によっても色々な姿を見せてくれる、眠る暇もない観光客泣かせの路線です。また途中下車をすれば数々の温泉も楽しめます。

目を閉じると、網走から釧路までの車窓が次々と脳裏に浮かびます。そして私はまた釧網本線に乗車します。（平成25年）



kaisokushiretoko



Masuurakou



Nakasharisharidake

しれとこの風を感じに斜里へ

谷津正明



7月25日、当機はまもなく女満別空港に着陸しますの、アナウンスで小窓の外に目をやると眼下には秋蒔小麦、春蒔小麦、甜菜、馬鈴薯の花が織りなす、私の大好きな風景が目に飛び込みました。まどろみから完全に覚醒、地団太を踏む何故かと言いますと着陸態勢に入ると電子機器は使用出来ないからです。(デジカメ使用不可)

羽田を発時の気温32℃が空港ターミナルを出たら17℃思わず身震いをしてしまう、雲の流れからして知床半島を山越えした風、まさに知床の風を肌を感じつつ

空港から知床エアポート・ライナーなる斜里バスが運行するバスに乗車、乗客は私を含め6人フト採算面を考慮してしまう、呼人、網走駅前、バスターミナルを過ぎ鱒浦港で曲がると海上に浮かぶ知床連山、海別岳、斜里岳が良く来たなと迎えてくれている様な感じがするのは何故か？私だけかな？

明るい時分の帰斜は初めてと思わずニヤリ、山々が大きく見えるので改めて感動に浸りながら斜里駅前に到着、バスを降り今夜の宿へ取敢えず薄手のセーターを取り出して着用後、明日お世話になるお店に御挨拶に伺い撮影ポイントの確認



夕刻より高校の良友？数名と懇親会43年振りの再会の友もあり、在学中の四方山話で盛り上がり気が付けば日付が変わっていました。

26日 K君が宿まで迎えに来てくれて行動開始、朝方の雨も上がり知床方面に走り、先ずはウトロへ更に羅臼へと足を延ばすも知床峠は霧の中でした。お手上げ状態「羅臼で蕎麦を食べて戻ろう」ウトロで同級生の所に寄り立ち話後、斜里に戻る途中でK君が横道へ長靴に履き替えて林の中へ見回りを始めました。タモギタケを探していたのです私の為に、後で別のK君からキノコ採りの名人と聞きました。



天に続く道（斜里平野を貫く約20kmの直線に見える道路と右手奥光るオホーツク海）

峰浜で斜里会々員の飯塚ご夫妻のペンションに寄り御挨拶（来たよ！それじゃ10月中野で会いましょう）
タモギタケの行方が気になります？ 翌朝、義兄が調理して私の胃袋へ美味しくいただきました。
夕刻よりネプタの撮影、終了後、昨日最後に寄ったお店が分らず振り出しに戻り、再スタート後、辿り着き
「塩ラーメン」を戴いて本日の業務終了

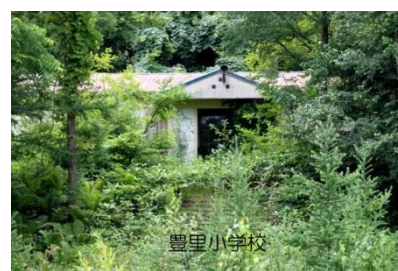
27日 別のK君が迎えに来てくれて大栄小、来運小、豊里小、三井小、富士小、越川小を巡り撮影、
この6校は児童の声も姿も無く兵どもの夢の跡なのです。一部お見せしたくない部分も有りますがふるさとの
今の姿をご覧ください。



大栄小学校



来運小学校



豊里小学校



三井小学校



富士小学校校舎跡



越川小学校

夕刻よりネプタ撮影2日目、団体のご厚意によりネプタに上らせて頂き撮影、上つての感想は非常に眺めは
良いのですが風に煽られると良く揺れます、あと1つ肥満体の方は上れません、私がギリギリでした。内部の骨
組みは鉄製で回転機構と垂直梯子と空気圧昇降装置、照明具で構成されているそうです。

26日は13基、27日は10基が役場前から19時スタート（1983年から続くそうです。）
友好姉妹都市の弘前市、竹富町はじめ北見斜里会、旭川斜里会の方々に参加されていました。
旭川斜里会参加者の中に蝦名会長（市議会議員）を発見しっかり「ヤーヤドー」と叫んでいました。
皆様、おつかれさまでした。特に竹富町の方々はカリユシに半纏でさぞかし寒く感じたかと思います。
ネプタ終了後は中学の同級生が集まり懇親会、久しぶりに会うも皆さん元気で何より、珍しく1次会で
解散、日付は変わっていたようです。





28日 S君が迎えに来てくれて神の子池、さくらの滝（鱒がジャンプしていました。）前浜東岸、前浜西岸、前浜西岸は築堤の影響で流砂防止のテトラポットが置かれておりイメージが変わっていました。

小学1、2年生の時、遠足先の鈴蘭山を思い出して・・・腹が減った蕎麦を「食うたい」来運に逆戻り無事に蕎麦を戴くことが出来ました。1口目は来運の水で水蕎麦、2口目は薬味無し、3口目は辛み大根で美味しくいただきました。又、寄りたいお店に指定（次回は斜里岳盛りを食べたいぞ！）

29日 北見から甥っ子が迎えに来て原生花園を45年ぶりに散策、天都山、北見市郊外で撮りおさめ、4日間撮影のメで甥っ子と飲むも先に沈没、疲労と歳のせいでしょうか？

最後まで頂きを見せてくれなかった斜里岳が今度来た時に見せてあげる、「しれとこの風を感じに」又、お出でよと宿題を出された様な感じがします。

風は冷たく感じましたが出会った人達の情は温かく最高の「ふるさと斜里」撮影旅でした。

**** 撮影にご協力をいただいた、皆様に紙面をお借りして厚く御礼を申し上げます。 ****

「自分への戒め」、「家族への償い」 —あの時の誓いを、今一度振りかえる—

□平成 22 年(2010)12 月 22 日は今でも忘れる事はできない。たまたま、ある協会の依頼で投稿したエッセイ「70 歳へのハードル」を、ほぼ 3 年振りに振りかえる。

「70 歳へのハードル」

吉野 躬行
Yoshino Miyuki



簡単に古希を迎えられるかと思いきやなかなかハードルは高かった。平成 22 年 12 月 22 日は

私にとって忘れがたき日である。不覚にもプチ忘年会の帰りにこっぴどく痛い目にあった。それまで年相応の健康を自負し、回数こそ少ないが週に一度はインラインスケートで多摩川沿いのサイクリングロード(登戸⇄是政⇄立川)をスイスイと流してきた脚力にもかなりの自信はあった。その自慢の脚力もドイツ黒い森で熟成されたシュナップと日本の原酒“にがり酒”との見事なまでの Best-Mix によって図らずも姿勢制御不能となり、交差点の舗道に自爆。地に落ちた一瞬である。左顔面強打、鼻骨骨折、出血多量。この世には捨てる閻魔(えんま)も、救う神もあり。

どれほどの時間が経ったのか知るすべもないが運良く某大学相撲部の学生さんに発見され 110 番通報で救急病院へ搬送された。

外傷の治療と頭部 CT 検査の後、家族に引き取られたのは真夜中だった。放射線被ばくは受けないのに越した事はないが、こんな時の CT は 6.9mSv でも有難い。

健康への過信、気の弛み、打ちどころがあと数 mm 上にずれていたら今はない。これを契機に「自分への戒め」、「家族への償い」のために強い気持ちで“断酒”を決行した。

さて、左の写真は平成 22 年 10 月 18 日北海道の市街地に出没した 2 頭のヒグマ。まるで「サファリ」と新聞紙上を賑わせた町、北緯 43 度 55 分、東経 144 度 40 分、ここが私の生まれ故郷、知床半島のある町、北海道斜里町である。



知床半島は 2005(平成 17 年)7 月 14 日世界自然遺産に登録された。日本には 14 の世界遺産があるが、自然遺産は屋久島、白神山地、知床の 3 つしかない。オホーツク海に突き出した起伏に富んだ知床半島は、日本最後の秘境として是非ともお勧めしたい観光スポットである。

ことしも「東京ふるさと斜里会」で、故郷の斜里を慕って会員相互の親睦を深め合う。「男爵も目覚めてみれば古希のとし」

アーそうだ！忘れない内に書いておこう。あの怪我以来、すっかり神の存在を信ずるようになった。この原稿が Isotope News 6 月号に載る頃には、あの強い気持ちで家族に誓った“断酒”宣言は、果たして守りきれているのだろうか？私にもわからない。神のみぞ知る。

のど元過ぎれば・何とやらで、あれほど強い気持ちで決意した自分への約束“断酒”は、はかなくも 3 カ月で敗れた、と言うより破った。かえってストレスに・医師の優しい進言に即座に便乗した。首のリハビリは今でも続けているが、美酒に接するたびごとに「自戒の念」は忘れない！

「作家 三浦綾子さんと斜里」



理事 船津正吉

三浦綾子さんは、昭和 39 年朝日新聞の 1 千万円懸賞小説に『氷点』で当選したことで、年配の方はご記憶のことと思います。旭川在住の三浦商店という雑貨店を営んでいた気さくな主婦が大作を書き上げ見事当選を射止めて、当時大きな話題となりました。

三浦綾子さんの自叙伝『道ありき』のなかで、婚約者西中一郎氏（仮名）が出てきます「彼はオホーツク海に面した S 町に住んでいた」。実は彼女は結納の日に脳貧血で倒れ、医者から「軽い肺浸潤です、3 か月入院すれば治ります」と言われ入院するのですが、3 か月過ぎても病状は一向に回復せず、結局その後 13 年間の闘病生活を送る事になります。入院して 3 年後微熱が続くなか一時退院した時に、彼女はこのままではいけないと婚約解消の為 S 町にやってきたのです。そして「長いこと心配かけてごめんなさい。結納金を返しにきたの」と二人っきりで砂山に登った時告げるのですが、彼は「結納金はあなたにあげたもの持って帰って欲しい。・・向こうに見えるのが知床だよ。」と応えるのです。

この『道ありき』に出てくる S 町は実は斜里町です。本の中で婚約者の紹介がされ、誠実で実に気の付く親切な人で、生活力もありミスター北海道に担ぎ出されようとしたほどの容貌と優れた体格だったこと、彼女が発病した時は遠く斜里から直ちに旭川に見舞いにやって来たこ

と、そして二人が登った砂山は斜里の海岸です。多分昔の役場の脇を歩いていったのではないのでしょうか。斜里に住んでいた西中一郎氏の家族が、三浦綾子さんとの婚約解消を了解した後も、川湯温泉へ案内したり綾子さんを気遣いつつ心を込めてもてなしたことが書かれています。何とその西中一郎氏は、私が斜里に住んでいた時の隣家の小父さんだったのです。先日小学校時代のアルバムをたまたま開いていたら、そこに西中氏の息子と私が一緒に店先で撮った写真を発見しました。

今夏、旭川市内にある三浦綾子記念文学館に家内と行く機会がありました。駐車場から入口へは小説氷点の場面を思い起こさせる見本林となっており、その林は北海道出身の私には大変懐かしく、また館内は三浦さんの生い立ちから闘病生活、そして作家になるまで様々な物が紹介されていましたが、ある本の原稿（400 字詰め原稿用紙）も展示されていて、その高さが 10 c m程になっていたのは驚きでした。

『氷点』は同年朝日新聞の連載小説となりましたが、朝日新聞の連載小説は明治期の夏目漱石や昭和期の吉川英治を始め、日本文学史上に大きな影響を与えた作品を数多く世に送り出しています。そういう日本を代表する作家三浦綾子さんが故郷斜里と関わりがあったということは嬉しい限りです。



三浦綾子記念文学館 見本林

日本経済新聞からの記事の掲載

文 化

「オホソク海の流
水が流れて流れて
白で寒い流れて
凍えり、52年斜里町ウトロに
る体、軋む音響く、鳴き
声悲し、水の影が、一夜
に入植した。知床の海
で消える。こは地の果
て、知床岬
7年前、私が93歳のと
きに書いた知床岬とい
う歌詞だ。知床で漁師を
していたこの気持ちを
思い出して書いた。10
1歳となる今年、思が
けずこれが演歌となり、
民謡歌手の伊藤多喜雄さ
んの歌でCDになった。
復員後青森から斜里へ
私は大正元年(1911)ず、1人で

2年、11月生まれ。津軽
半島北部の青森県三厩村
(現外ヶ浜町)出身だ。
小学校を出るか出ないか
のちに父と漁に出るよ
うになった。32歳で出征
し、小笠原諸島の父島で
終戦を迎えた。
復員後に漁を再開した
が、なぜか津軽の海で魚
が捕れなくなった。理由
はわからないが、生活が
できないと危機感が募
り、近隣の漁師25世帯とも
はスレイ、ホツケン、
トリス、スル
メカがよく
とれた。
仲間と定置
網で、カ漁や
ムツ漁なども
手掛けたが
、資材にお金が
、マス
の値段も下が
った。そこで
元手がから
り、漁を始めた。
朝5時の海の水は相
冷たい。年を取って
は家族に止められたが
90歳の夏まで続けた。と
ころがその秋、脳梗塞で
倒れた。手足にまひが残
り、残念ながら漁師は引
退。マイサーヒセセタ
ニユースを聞き、自分



今年3月のコンサートで歌う伊藤多喜雄氏(中央)。中央が筆者

知床の厳海、100歳の詩

◇10年前まで現役漁師引退後書いた詞が演歌に◇

野上 清蔵

1でハリハリを始めた
文字や文を書き始めた
のはハリハリの一環だ。
鉛筆やボールペンは持つ
のが難しく、筆ペンを使
った。風呂に入った後、
午前中の自由時間にテラ
シの裏に好きなことを落
書きのように書いた。鯛、
鱈、鰻、柳葉魚など魚類
の漢字なら今も40以上向
も見ずに書ける。
そんなふうに過して



いふち、すい、ニユ
スが飛び込んできた。2
009年夏、知床が世界
遺産に登録されたの
だ。自分が生活し、漁を
き直した。私の言葉に残
る津軽弁を改め、さらに
七五調にした。それが最
初の曲だ。好きな演歌で
はなかったが、出来は
よくわからなかった。
昔から、舟の上で自分
で録音したカセットで演
歌をよく聴いた。好きな
歌手は北島三郎、川村
かし、松原のぶ。歌詞
を書き出し、漁の最中に
歌った。オホソク海の
の上、誰ほほかることな
く大声で歌うのは気持ち
よかった。小学校も
に通っていない私だが、
これで演歌の言葉が自然
と体になじんだ。
その後、文を書き、リハ
リを続けた。相変わらず
ず、好きなことを好きな
ように。だれかに見せる
気持ちはなかったが、最
初にほめられたこともあ

センター長が知り合い
の音楽家に頼み、作曲し
てもらうことになった。
「このままで演歌になん
と書かれ、何度も書き
直した。私の言葉に残
る津軽弁を改め、さらに
七五調にした。それが最
初の曲だ。好きな演歌で
はなかったが、出来は
よくわからなかった。
昔から、舟の上で自分
で録音したカセットで演
歌をよく聴いた。好きな
歌手は北島三郎、川村
かし、松原のぶ。歌詞
を書き出し、漁の最中に
歌った。オホソク海の
の上、誰ほほかることな
く大声で歌うのは気持ち
よかった。小学校も
に通っていない私だが、
これで演歌の言葉が自然
と体になじんだ。
その後、文を書き、リハ
リを続けた。相変わらず
ず、好きなことを好きな
ように。だれかに見せる
気持ちはなかったが、最
初にほめられたこともあ

”知床の冬”は特に厳しい。その知床半島の突端知床岬で97歳まで小舟ウニ魚で生計を立てながら力強く生き抜いてきた“野上清蔵さん(現在101歳)の記事が日本経済新聞H25.8.27付け朝刊に掲載されました。会員の皆様にご紹介します。(注)なお、日本経済新聞社からのご了解を得るために斜里町(株)佐野自動車工業社長佐野博様に大変ご足労戴きましたこと書き添えます。(編集 吉野躬行)

平成 25 年度 第二回役員会・暑気払い

光が丘区民センター内会議室 5 階-1 番



後方左より 船津理事、吉本監事、佐藤(禎)顧問、高田理事、佐藤(公)理事
前方左より 浦田副会長、三宅副会長、日吉理事、村木理事、吉野事務局長



平成 25 年 9 月 14 日 役員会 14:00-17:00 暑気払い 17:30-19:30